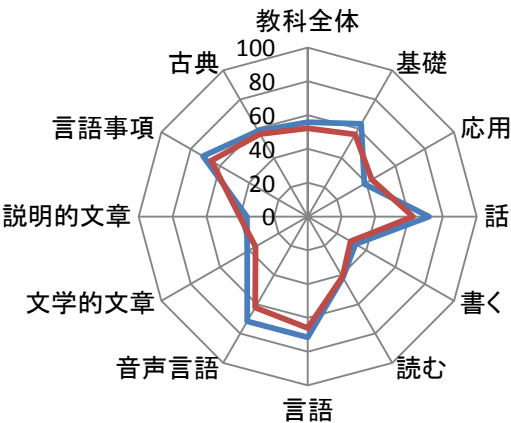


平成25年度 授業改善推進プラン

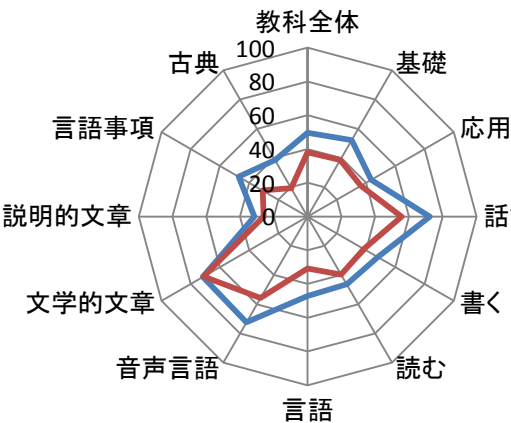
杉並区立和泉中学校 国語科

◆学力調査の結果

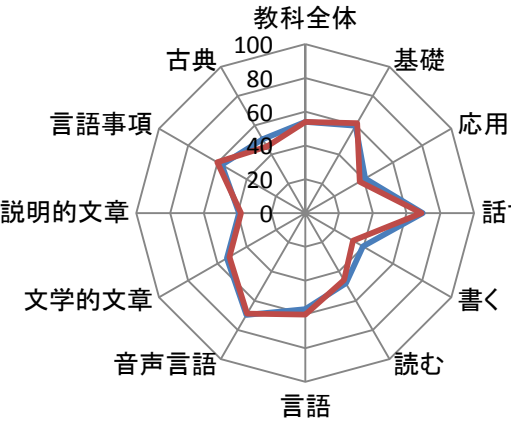
第1学年



第2学年



第3学年



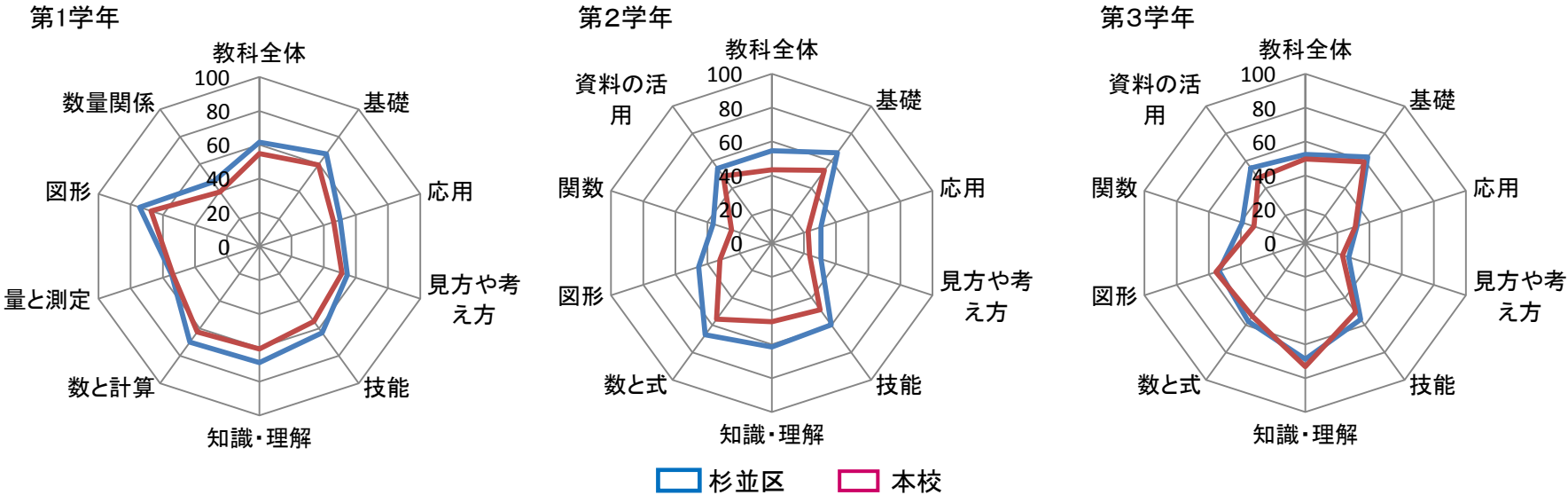
■ 杉並区 ■ 本校

	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	<ul style="list-style-type: none">・ 区の特定課題調査において、第2学年の各層の割合を見ると層4の割合が66.7%から31.8%まで減り、また、層1の割合が0%から4.5%に増えた。層2、層3の割合もそれぞれふえたことから、全体的に国語力がついてきたと考えられる。特に、「応用力」「書くこと」の力が昨年と比べ伸びた。・ 第3学年では、「基礎」と「言語」において杉並区の平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・ 第1学年、第2学年ともに週1 漢字テスト、漢字総復習テストほか、文法テストや熟語テストに取り組みさせることで、言語に関する知識と理解を高め、特に第2学年は、層4の生徒には基礎力を、層1の生徒には応用力をつけることにつながったと考えられる。また、第2学年は、要約や、自分の意見を400字で書かせる指導をしており、書く力の向上にもつながっている。・ 第3学年では、「家庭学習計画」を配布し、授業の進度に合わせて「基礎・基本」を繰り返し定着できるようにしている。また、話し合い活動などを通して、生徒の意欲・関心を引き出し、それをもとに授業を展開できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none">・ 漢字テスト・文法テストを定期的に取り入れる。・ 漢字コンテストの実施・ 反復をさせることで基礎の確実な定着をはかる。・ 説明的文章や文学的文章の構成・要旨をとらえ、要約する時間をとる。・ 進度のはやい生徒には、応用プリントを解かせる。・ 自分の考えと他者の考えを比較し、考えを広げたり、深めたりするようにする。
課題	<ul style="list-style-type: none">・ 第1学年では、基礎の定着を徹底していく。特に、「話す・聞く力」「書く力」「文学的文章の読解」に課題がある。・ 第2学年では、教科全体として基礎の定着に課題が見られる。特に「話す・聞く力」「言語に関する知識と理解」「古典」については基礎力の向上が必要。また、「書く」「読む」「説明的文章」については、ひきつづき丁寧な指導をしていく。・ 第3学年では、「書く」と「読む」が課題となる。これらは「応用」においても求められる力である。従って、「応用」では37.2%と低い結果となっているのがわかる。	<ul style="list-style-type: none">・ 第1学年は、物語の読み方や段落の役割など、文学的文章の読解について確認・反復を徹底し、授業の中でも、単元のはじめと終わりには必ず既習事項の確認から始め、基礎の定着を目指す。また、話し合いやスピーチ、聞き取りなどを通して、「意見を相手にきちんと伝える力」とともに、「正確に情報を聞き取る力」をつけさせる。さらに、「観点を決めて具体的に書く力」を身につけさせる。・ 第2学年では、小学校や中学1年の既習事項の復習を始め、「話す・聞く」「文学的文章の読解」「説明的文章の読解」「言語事項」など系統立てた指導を行い、基礎の徹底をはかる。また、文法や古典については、生徒の関心を高める指導をし、知識の定着を目指す。・ 第3学年では、読み取ったことをそのままにせず、他者に説明したり、自分の言葉で整理して書いたりする力が求められてくる。毎時間、自分の考えやわかったこと等を書く習慣を身につけさせたい。	<ul style="list-style-type: none">・ 単元の中で、言語活動を効果的に取り入れ、「話す力」「聞く力」「伝え合う力」をつけさせる。特に、おすすめ本紹介のスピーチでは、自分の伝えたいことをまとめ、分かりやすく相手に伝えているか、また、他の人の発表をきちんと評価しながら聞いているかを目標に取り組ませる。（第1学年、第2学年）・ 現代文の読解、古典の読解に関して、記述をもとに自分の意見を持たせるとともに、他の人の意見を聞いて自分の意見をさらに深められるような発問を工夫する。（第1学年、第2学年）・ 古典は、音読を通して読みに慣れながら、原文と現代語訳を照らし合わせて内容を把握しやすいようにする。（第2学年）・ 言語事項は、文法・漢字について引き続き確認・反復を徹底させる。（第2学年）・ ノートや学習プリントにおいて、自分の考えを必ず書くように指導する。（第3学年）

平成25年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校 数学科

◆学力調査の結果

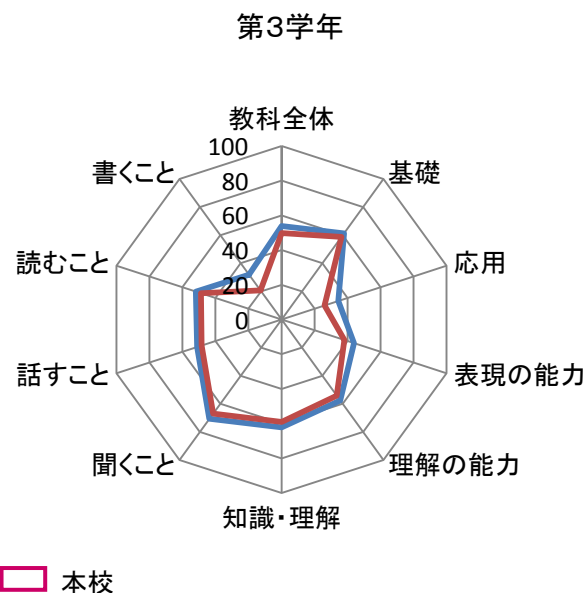
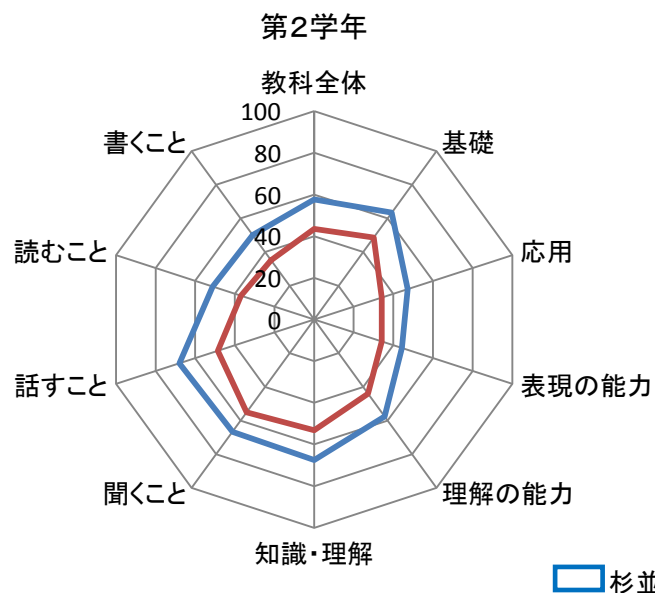


	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	<p>第1学年は、平均値に比べ中央値が低い。このことから学力にかなりのばらつきがある上に、正答率の低い生徒が多いことがわかる。その原因は知識・理解力の不足に伴う見方・考え方の不足である。少人数の基礎クラスでの徹底的な知識・理解力の定着を図らなければならない。そのために、授業の最初の5分で復習を行うなど、毎時間の繰り返しを行うなどの必要がある。また、生徒のアンケートをみると、家庭学習の時間が区の平均と比べて少ないので、定期的に課題を出させるなどの工夫も必要である。</p>		
課題	<p>文字を苦手とする生徒が多く、規則性の問題、論理的に考える問題に対しても正答率が低い。今後の数学における学習の中心となる一般化へのかなりの弊害となると懸念する。なるべく具体物をICTや模型等を使用し視覚的に例示をしていき、問題解決型授業を取り入れることで論理的に考える力を育てる。</p> <p>第2学年は、応用力はさほど低くなく、基礎力が低い。得点分布をみて明らかなように、正答率の低い4層の生徒が半数をしめる。このことから正答率の低い生徒の向上が急務である。しかもこの4層の生徒は昨年度に比べかなり増加している。そのために、区の推移よりも中央値の下がり方が大きい。これは習熟度で少人数をすることによって、起こった現象ではないかと考えられる。例えば3層の下部の生徒が安心してしまふなどの心理的要因にはなっていないだろうか。改善策として、現2年生は単純少人数でやるか、もしくは基礎クラスでの生徒への喚起を促す策を考えなければならない。例えば再テストありの計算コンテストなど。しかし逆に1層、2層もふえている。</p> <p>第3学年は、全国学力・学習状況調査結果から主として知識の結果を見ると学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式すべてにおいて全国及び東京都の平均正答率を上回ったが、区特定の課題に対する調査結果では、層3・4の割合が51%と半数を超えている。。これは、知識・理解はあるものの問題演習不足から技能の定着がみられない結果と思われる。家庭学習も含めて問題演習量を増やしたり、定期的な計算テストを実施することで技能の向上。また、教科領域では、資料の活用や関数に関して理解不足であることがわかった。資料の活用では、事象を数学的に解釈することも苦手としているので、資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明させる授業を工夫していきたい。</p>		

平成25年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校 英語科

◆学力調査の結果



	教科の成果・課題	授業での取り組み	具体的な内容
成果	<p>・第2学年はほとんどすべての項目で区の平均より下だったため、今後の授業の改善と授業の工夫をしなければならないと感じた。表現の能力においては、既習の単語、文法を使って話す、書くといった活動を増やしたい。話すことに関しては毎日、英語日直という活動やスピーチを行っているが、書くことに関して力を入れなければならない。英作文などの授業や宿題をとりいれて、既習事項の確認をこまめに行っていきたい。</p> <p>理解の能力は、リスニング教材を使っているのですが、もう少し的を得た内容でまとまった英文が正確に聞き取れるように指導助言をしていく。言語や文化に関する知識が極端に低かったので、日ごろの英単語のテストや課題を出していきたい。</p>		
課題	<p>・第3学年は基礎的な力が付いていることがわかったので、応用力をさらに付けるために総合問題演習の時間を増やし、応用力を付けていきたい。また、話すことの項目の数値が極端に低かったので、英語日直を継続的に行い、また、スピーチにも力を入れていきたい。</p> <p>・生徒の興味関心をさらに高めるために授業改善として、導入方法の工夫や、使用機器の改善をして今後の授業にとりいれていきたい。</p>		

平成25年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校

【理科】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導)
成果	1年、2年、3年共に、自然現象に関心を持っており、一つの事象に対してたくさんの疑問を持つことができ、意欲的である。また、実験に取り組む姿勢も意欲的であり、積極的に実験をおこなうことができる。	体験的な学習として、それぞれの単元で実験を多く取り入れるようにしている。その中で、化学、物理単元の実験においては、実験の結果から考えるという取り組みをおこなう。また、実験の結果を表現させる機会をつくり、自分の考えを文章で表現させるようにする。	実験の際にプリントを用意し、実験の結果を文章や絵で表現させるようにする。また、感想と考察の違いを説明し、常に考察を書かせるようにすることで、自分の考えを持たせ、表現させる。 また、実験の安全性を確保しながら、班で協力をして実験を進められるように指導し、実験の技能を高め、結果を導き出すことができるようにする。
課題	1年、2年、3年共に、実験の結果から考察することを苦手としている。また、実験の結果を文章にして伝えることも苦手としている。自分の考えを持ち、自分の言葉で表現ができるようにする。	2、3年生においては、新単元を学習する際に、すでに学習した単元との関連性を持ち、単元の最初に、既存の学習内容の復習をおこなうようにする。	全学年で、定期的にノートのチェックをおこない、授業内容の復習、学習にノートを用いることができるように指導していく。 学習している単元の内容が、現在の科学技術の中でどのように関係しているかの話を授業で行うようにする。

【社会】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導)
成果	1年…全般に良く授業に参加している。また、1年生の割に良くノートがとれるのもよい状況である。 2年…成績で、中間層の生徒が増えてきている。学習に対する意識が全般に向上している。 3年…成績上位者が増え、1がつかず2も大きく減少した。全般に力の向上が見られる。	単元終了時に、まとめ学習を行い、自分の考えをまとめてからグループで話し合って意見をまとめ、クラス全体に発表している。読み解く力の向上につながっていると考えている。	授業前に本・ノートをすべて広げておくことを定着させている。 白地図作業など、なるべく全員に何かの形で前面に出て参加する授業を行っている。 発問を多くし、なるべく多くの生徒に発言させてきた。 先生の話を書きとることを1年生のころから指導し続け、3年生ではかなり情報の多いノートを作成できている。
課題	1年…覚えることが多いことで、社会科に対する苦手意識を感じ始めた生徒が出てきているように感じる。定期テスト前の学習にしっかり時間をかけて覚える習慣を身につけさせる必要がある。 2年…5のつく生徒が出てこない。上位者がいないために、授業のレベルを上げにくい。また、定期テスト前の学習の定着を引き続き指導する必要がある。 3年…良い状況であり、とくに課題はないが、これから新しい「公民」の領域に入っていくにあたり、生徒の取り組みの様子に変化がないか、気を配る必要がある。		1、2年…宿題忘れや持ち物の忘れが見られたので、根気良く指導を継続する。比較的ノートがよく書ける学年だが、板書を写すのがやっとの生徒への声かけを継続する。社会が苦手という生徒を減らすために、社会的事象に興味を持たせてもっと知りたい意欲を喚起していく。 3年…公民についても、地理で行っている単元のまとめのグループ発表を、形を変えて実施していく。とくに、思考力・判断力を使う場面を授業内で増やしていく。

平成25年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校

【音楽】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導)
成果	1年生:中学の音楽の授業の流れに慣れ、集中するようになった。 2年生:男子の声変わりが増え、歌う事が安定し、また集中力がついてきた。3年生:自分たちの力で授業を盛り上げ課題に取り組めるようになっている。	合唱:1年生:歌声の出し方を学び、良い発声で歌唱するようになった。 2年生:男子の声変わりにより、男声パートを2つに分け、パートの特性が出るようになった。ハーモニーが厚くなり生徒もより集中して音を楽しむようになっている。 3年生:音取りを短時間で集中的にやりとげ、表現力を研究するようになった。	男子生徒が多いため、特に1・2年生は、授業規律の面を重点的に指導した。 授業内での切り替えの場面や、パート練習のために音楽室内を移動する際、教材を持ち変えるときなど、迅速に動くよう声かけを工夫した。また、生徒がどんどんついてこられるよう、リズムのあるスピード感のある授業を心がけた。結果、切り替え・集中が以前より増したと思う。
課題	1年生:切り替え・動きを無駄なくできるようにさせる。 2年生:自分たちでリーダーを中心に自主的に練習が運営できるようにさせる。 3年生:パート練習時など全員が意見を述べながら練習に参加するようにさせる。	合唱:更に一人一人の意識・技術を高めさせ、全体のレベルを引き上げる。 音取りに集中する。パートごとの歌い込みで意見を言い合う。など更に充実させる。	2学期からは、1学期の指導をもとに、さらに深く音楽に向き合う指導を心がけていきたい。

【美術】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導)
成果	デザイン制作や素描制作を通して、基礎的な表現能力が少しずつ養われてきた。また、様々な制作活動の中で、作品の感想や表現方法の創意工夫した点などを発表することで、言語活動を通して生徒の制作意欲も高まった。	・基礎的な表現力を高めるためのデッサンの制作活動 ・作品の制作活動における言語活動の充実	・絵画、彫刻及び工芸、デザインの制作活動の中で、デッサンをする場面も増やし、様々な造形活動を通して、基礎的な表現力や技能を高めていく。 ・各作品ごとの制作活動を通して、言語活動を充実させるために、自分の作品の感想や表現方法の創意工夫点などを発表させることで生徒が互いに刺激を受け合いながら、自分自身の制作意欲を高めていく。 ・机間巡視をする中で、生徒の状況に応じて、個別指導を展開し、制作活動を充実させていく。
課題	作品にける制作活動を通して、今後も継続的に基礎的な表現力の向上を図る。また作品も含め、様々な制作活動を通して、より多くの生徒に、可能な限り数多く発表する機会を設け、言語活動の充実を目指していく。	・基礎的な表現力を高めるためのデッサンの制作活動の継続 ・言語活動を取り入れた作品の制作活動の継続	

平成25年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校

【技術】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導)
成果	・作品等の製作活動を通して、基礎的・基本的な工具の使い方、キーボードやマウスの操作方法、かつ、安全第一で作業を行う態度はできてきた。	1年 情報に関する技術：コンピュータと情報処理・情報通信ネットワーク・セキュリティの基礎 2年 材料と加工に関する技術：設計と製作（木材加工におけるけがき、切断（ミニトレ・本立ての製作）） 3年 エネルギー変換に関する技術	実物投影機やスライドや動画の教材を授業の中で活用し、できるだけ視覚的に興味・関心を高めていった。
課題	夏休み後は残暑も残り、注意不足で思わぬ事故になりやすい。1学期できていた安全第一での作業や態度が継続できていけるか不確定な要素も多い。9月からの授業では、もう一度、技術に対して取り組むべき態度を再確認しつつ、作品等の製作活動を通して、より技術に対する興味や関心を深め、進んで生活を工夫していこうとする態度を育むことを目指す。	1年 情報に関する技術：情報モラル、プログラムによる計測・制御 2年 材料と加工に関する技術：切断・部品加工・組み立て（ミニトレ・本立ての製作） 3年 エネルギー変換に関する技術（エコキュート・ブラジルの製作）	2学期以降は実習が中心となり、また作品も完成に近づいていくので、安全に配慮して作業がおこなわれているか・進捗状況・実技における工具の使用等の確認、指導を中心に机間巡視をより多く行う。

【家庭】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導)
成果	1年：衣生活のうち製作で、毎時の目的を考えながら制作に取り組むことができた。 2年：食生活の分野で、健康、栄養について学び、その知識の応用して、班単位で話し合い協力して課題（レポート）をまとめた。 3年：家族と子供の成長分野のうち、子供の成長に必要な遊びやおやつについて、実習や講義を通して理解を深めた。	1年：「衣生活」…衣服の役割、衣服の活用と選択 2年：「食生活」食品の栄養 食事の計画 3年：「家族、家庭と子供の成長」…幼児の成長を支えるもの 幼児の生活と遊び	レポートや作品の具体的な例示を、教師側から多く提供することで、理解が早まった。また、個人の作品以外に、班単位でまとめた2年生のレポートは、お弁当一つに対して多様な意見が出る中で、班として一つのレポートにまとめるなど、協力してよりよいものを作り出すことができた。
課題	1年：更に目的意識を持って取り組むために、単元全体の見通しを各自で考えられるような授業展開が必要と考えられる。 2年：自ら調べようとする姿勢を育てたい。 3年：幼児の成長について、理解を深めたが、実感があまりない様子であった。	1年：「衣生活」…衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ 2年：「食生活」食品と選択、基礎的な日常食の調理 食事の計画「衣生活」…生活に役立つ小物作り 3年：「家族、家庭と子供の成長」…幼児の発達と生活の特徴 家族の役割	教師側から示す例示をやや減らし、どのようなものが良いか、生徒自身が考えて工夫し、作品やレポートを作成できるようにする。例示を減らすことで、理解不足、理解の遅れが懸念されるが、それは机間指導や発問の工夫をすることで、自力で考えたという達成感のある授業を目指す。

平成25年度 授業改善推進プラン

杉並区立和泉中学校

【保健体育】

	教科の成果・課題	授業での取り組み (領域・単元 等)	具体的な内容 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・かかわり合い、学び合い <p>1学期はペア学習、2学期はグループ学習を増やして、かかわり合い、学び合いをしながら学習を進められるようにしている。生徒同士で声をかけ合うことによって、学習を高めていく。また先生に言われてから行うのではなくて、自分達で考え実行する自主性を養わせている。</p> <p>個々の課題、チームとしての課題をもって授業に臨めた。運動会では、三年生の力強い走り、スピードにのったバトンパスがみられた。球技では日鶴のグラウンドが使えたため、ソフトボールが実施できた。(三年男子の人数だと和泉中の校庭では実施できなかった。)</p> <p>学習カードは1学期から取り組み始め、書く習慣はついてきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段階を踏んだ指導 <p>主に器械運動(マット運動・跳び箱運動・平均台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動につながる準備運動を丁寧なことにすることによって、心も体も解放し、スイッチオンの状態で主運動に取り組ませた。初めての運動は、生徒に任せるのではなく、ある程度段階を踏んで自信をもたせながら行い、意図的な場や活動によって技が出来るようにさせることで、発展技に取り組むことが出来た。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの徹底 ・体力テストの結果はまだきていない。 <p>男女共に、「ハンドボール投げ」が都の平均より下回っている。また、男子は「長座体前屈」の結果や授業の様子をみると柔軟性を高めたい。女子は、全体的に運動能力を高める必要はあるが、特に俊敏性、持久力などを高めるとともに、最後まであきらめないというような精神力も養わせたい。</p> <p>どの領域も基礎が出来る程度である。体育の中で必要な、仲間同士のかかわり合いや学び合いなど通して運動経験を増やしていく必要がある。</p> <p>校舎の建設にともない、日鶴のグラウンドを使用し、思い切りソフトボールを行い、運動欲求を十分満たすことができたが、移動にかかる時間、用具の持ち運び等の不便さを、できるだけ解消していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの徹底(全領域) ・体力向上の取り組み 大縄・ダブルダッチ ・ミニスポーツ大会等 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・2・3学年ともに授業後の振り返りでは、自分の目標を明確にすることや言語活動の一環として、学習カードを書く取り組みを続けていく。3学期には、その授業で習った用語を用いて具体的にどこをどのように工夫したのかを書いたり、本時の目標に沿った感想を書くことが出来るように指導する。 ・大縄・ダブルダッチで持久力、巧技性を養う。さらに、仲間とかかわり合いながら運動することも重視していく。 第2学年は、跳ぶだけでなく発展技にも挑戦して、さらに自分達で工夫した技をできるようにしたい。 ・ミニスポーツ大会では、スポーツに対する興味・関心を高める。